

いま、私たちに できること



離れてお住まいのご家族やご親戚が集まる
法事の開催が難しい状況ですが、
パソコン、タブレット、スマートフォン
などのリモートを用いて
少しでも法事のご縁を結びましょう。

法事・法要をおつとめするにあたっての 留意点(ガイドライン)

「3つの密」(密閉・密集・密接)を避け、
基本的な感染対策を徹底しましょう。

【感染予防の基本】

体調管理 毎日体温を計測、体調を整える

手洗い・消毒 丁寧な手洗い、共有物も消毒

飛沫防止 マスクの着用

席配置の工夫 最低1m間隔を空ける

こまめな換気 1時間に2回以上、空気を入れ換える

密接を避ける 会話のときは正面に立たない

◎飲食(お斎・茶菓など)のときは感染リスクが高まるため
特に注意しましょう。

- ・茶菓はなるべく個別包装されたものを用意します
- ・料理などは個別に配膳、または持ち帰りにします
- ・コップや食器等は共有せず、使い捨てにしたりします

◎感染拡大地域への移動、感染拡大地域からの移動には、
十分注意しましょう。

◎体調の変化に注意し、無理をせずお参りしましょう。

◎発熱がある場合などは、お参りを控えましょう。

※法事・法要などで、門信徒のお宅に伺うときは、
僧侶の方がたにも感染対策を十分に行っていただくよう、
宗派(西本願寺)からもお願いしています。

※法事・法要をおつとめするにあたって不安がある方は、
所属のご寺院に連絡し、ご相談ください。

いま 私にできること

What can I do now?

私のいのちを 大切にすること

To cherish my life

他の人の いのちを 大切にすること

Respecting the life of all people on earth

いま私たちは 大きな不安の中で 生活しています。
目に見えない ウイルスに対する不安。
いつまで続くかわからない不安。
大切な「つながり」が そこなわれてしまいそうな不安。
そんなときは 少し立ち止まって周りを見てみましょう。

「つながり」の中で 生かされている私。
だからこそ いま 私のいのちを大切にしたい。
私とつながる他の人の いのちを大切にしたい。
そのために いま 私にできることを考えましょう。

自分は大丈夫と 過信しない。
必要なものは 人と分かちあう。
根拠のない情報に 振り回されない。
不安が生み出す偏見や差別の心を 持たない。
厳しい状況の中 力を尽くしている方々に 感謝する。

「つながり」の中で 生かされている私たちは
共にささえあい 力をあわせ
誰もが安心して生活できる社会を 取りもどしてまいりましょう。

新しい日常の中で つながりの中で生きている





「新しい日常」に合掌のころを



新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年初めて実家に帰省しなかった。
お盆に、お正月に、帰れることは当たり前ではないことに気づいた。
待っている人がいること、帰る場所のあることの、ありがたさに気づいた。

今年こそみんなに会いたい。
法事で久しぶりにみんなと語りたい。
懐かしい風の香や、ふるさとの味。
自粛生活で誰とも会えない日々にも、私は一人ではなかったことに気づく。

仏さまの前で手を合わせ、生かされている、
支えられていることに感謝。
亡き人と、私を支えるたくさんの誰かと、
つながるご縁をありがとう。

——仏事のご縁は、きっと新しい日常を生きる私の力になる。

南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声
わたしの 悩みの 仏のさとりは 本来一つゆえ
「そのまま救う」が 弥陀のよび声
ありがとう といたいて
この愚身をまかす このままで
救い取られる 自然の浄土
ぶつとんほうしゃの お念仏

(ご親教に示された「浄土真宗のみ教え」より)

家庭での仏事

しょうつきめいにち

祥月命日…… 亡くなった方の命日におつとめします

がつき たい や

月忌(速夜)…… 亡くなった方の月命日(毎月)に
おつとめします

ねん き

年忌…… 一周忌、三回忌など定められた年の
祥月命日などにおつとめします

か ていほう おん とう

家庭報恩講…… 浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の
ご命日の法要を家庭でおつとめします

にゅうぶつほうよう

入仏法要…… 新たにご本尊をお迎えするときに
おつとめします

せん ぶつ ほうよう

遷仏法要…… 引っ越しなどでお仏壇を移動させるとき
におつとめします

しゅんこうしき き こうしき じょうとうしき てい そしき けん び しき
竣工式(起工式・上棟式・定礎式・建碑式)

…… それぞれのご縁にあわせておつとめします

この他、人生の節目に、お寺やご家庭で仏事を営むことも
できますので、気軽にお寺に相談してください。

年忌一覧表

- 一周忌 ……亡くなって 1 年目におつとめ
- 三回忌 ……亡くなって 2 年目におつとめ
- 七回忌 ……亡くなって 6 年目におつとめ
- 十三回忌 ……亡くなって 12 年目におつとめ
- 十七回忌 ……亡くなって 16 年目におつとめ

以後、二十五回忌※、三十三回忌、五十回忌と続き、それ以降は五十年
ごとにお勤めします。(地域や寺院により異なることもあります)

※二十五回忌を、二十三回忌と二十七回忌に分けておつとめすることもあります。

ちゅういん
中陰は亡くなった日から数えて七日目に営む法要が「初七日」。
以後「二七日」「三七日」と七日ごとに満中陰(四十九日)まで
法事をおつとめします。

